

# 自治会活動 デジタル化

## 紙資料削減やウェブ会議

自治会活動のデジタルトランスフォーメーション(DX)推進を目指す袋井市は二十三、二十四の両日、市内の自治会連合会長二十四人を対象にタブレット操作の研修会を開いた。現在、市からの連絡事項は紙資料を配布・郵送しているが、移行期間を経て六月をめどにペーパーレス化したい考えだ。オンライン会議も取り入れ、各会長の負担の軽減を図る。(牧田幸夫)

## 袋井で研修会

研修会は六人ずつ四回に分けて実施。NTTドコモから同市に向向している小俣一樹専門官が講師を務めたが、補助役として袋井・森地域シルバー人材センターが育成した「デジタルサポーター」のシニアがマンツーマンで付いた。

約二時間の研修は、マイクソフトチームズの基本操作を学んだ。チャットやグループチャットのやり

④タブレット操作をシルバー人材センターのデジタルサポーター(壁側)から教えてもらう連合自治会長  
⑤ウェブ会議にも挑戦=いずれも袋井市役所で



方、共有されたファイルの確認方法、テレビ電話の使い方など。その場で六人によるウェブ会議も行い、小俣専門官が「相手の反応が見えづらいので、表情やしぐさは大きめに」などとアドバイスした。

隣で操作法を教えたシニアは、シルバー人材センターが主催する高齢者向けスマホ講習会の講師で、現在十二人が会員登録している。ほぼ同年代のため、教えられる側も質問をしやすという。

市ICT(情報通信技術)政策課の大石隆之DX推進室長は、ペーパーレス化の利点について「地域の代表である連合自治会長さんは、いろんな会議に出席し、その都度、多くの資料を持ち運んでいる。今後はタブレット一つを持っていけばいい」と語る。

研修を受けた駅前自治会連合会長の渡辺豊さん(七五)は「早く慣れるしかない」とし、「資料は必要なものだけ印刷すればよくなる。ウェブ会議なら、わざわざ一方所に集まらなくて済む」と歓迎した。